

# 令和6年度第1回富士見市いじめのない学校づくり委員会 会議録要旨

【日時】 令和6年6月17日（月） 14:00～16:00

【開催場所】 富士見市教育委員会 会議室

【出欠状況】

小林	塚田	忽滑谷	森田	山岸
○	○	○	○	○

【事務局】

課長 教育相談室長 指導主事4名

【次第】

- 1 開 会
- 2 教育委員会あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 報告事項
  - (1) 令和5年度 富士見市立学校におけるいじめ等の状況について
  - (2) いじめのない学校づくり子ども会議について  
(子ども会議後の各学校の取組に向けても含む)
- 5 議 題
  - (1) いじめの重大事態への対応について
- 6 事務連絡
  - ・今年度の会議日程について
- 7 閉 会（副委員長）

## 【報告】

### (1) 令和5年度 富士見市立学校におけるいじめ等の状況について

- 【事務局】 暴力行為は小学校で増加傾向。中学校では、減少傾向にある。内訳は対友人が多い。  
いじめの認知件数については、小学校で増加。中学校は、横ばいの状態である。小・中学校ともに、学年が上がるにつれて減少傾向ある。  
不登校児童生徒は、小学校低学年から高学年になるにつれて増加し、中学校でさらに増加している。
- 【委員】 小学校低学年では、不登校として表出していたものが、高学年になるにつれて自殺など攻撃性が内に向いてくる場合もある。
- 【委員】 いじめ発見のきっかけは、一般的にアンケートが多いが、令和5年度は担任が発見しているケースが多くなっている。
- 【委員】 裁判や重大事態が起きるとアンケート結果が求められる。アンケートの実施方法においてデジタルでアンケートを実施することもできるが、デジタルだと筆跡で特定できないというマイナス点もある。
- 【委員】 小1のいじめの要因は、複数の園から入学してくるため、環境の変化による影響が大きい。
- 【委員】 環境の変化で考えると、コロナ禍前後で子どもたちの学びにどのような変化があったのだろうか。  
今の子どもたちは、コロナ禍により、発達段階に応じた体験を行えずに過ごしてきたことで、いじめや不登校等が起きると、対応できず、問題が大きくなってしまふことが多い。主体性が失われ、自分で物事を解決しようと動けない子も多いのではないか。
- 【委員】 欠席の理由が、体の調子が悪いということで、医者への課題として捉えてしまっていないか。欠席した児童生徒へ家庭訪問をすることにしたなら不登校が減ったという話も聞く。

### (2) いじめのない学校づくり子ども会議について

- 【事務局】 令和6年度もいじめのない学校づくり子ども会議を実施する。「いじめで悩んでいる子を守るためにどうすればよいか」をテーマに子ども宣言について振り返り、児童生徒が主体的に考えていく。

## 【議事】

### (1) いじめの重大事態の対応について

- 【事務局】 この会議の中で、重大事態が発生した際にどのように調査を進めればよいか確認したい。
- 【委員】 保護者が何をきっかけにして、事態に気付いたのかを知ることが大事。
- 【委員】 一般的に当事者は、自分を守る言い方をするので、双方で意見が食い違うのは当たり前である。
- 【委員】 双方の意見が食い違い、立証できないものの扱いはどうなるのか？
- 【委員】 立証できないものは、いじめと認定することはできない。
- 【委員】 今後に向けて、同様のトラブルが起こらないようにすることが大事。
- 【委員】 そのために、価値観を育む指導を行っていかないといけない。
- 【事務局】 いじめの重大事態における、調査対象者の範囲については、どこまでが含まれるのか。
- 【委員】 重大事態に関わった情報提供者も含めたすべての児童生徒が関わる。
- 【事務局】 謝罪のタイミングはどうしたらよいか。
- 【委員】 個別の謝罪は、家庭の意思で行うのが基本。当事者に謝罪についての希望を聞いてみるとよい。
- 【委員】 今後も継続的に、先に繋がる指導を行っていくことが重要である。